

建設技術展等の開催報告

「建設フェア四国2016in高知」の開催について

【四国建設広報協議会 事務局】
国土交通省 四国地方整備局 企画部 企画課
四国技術事務所
高松港湾空港技術調査事務所

1. はじめに

平成28年10月14日（金）～15日（土）の2日間、高知ちばさんセンターで「建設フェア四国2016in高知」（以下、「建設フェア」という）を開催しました。

本イベントは「建設産業及び社会資本整備への一般理解の醸成とその魅力発信」を目的として、2年に1度、四国建設広報協議会主催により行うものです（前回は2014年にサンポート高松で実施）。

また、高知県内での開催は8年ぶりとなりました。

2. 主催者について

「四国建設広報協議会」は、産・官・学が参画し、四国における建設産業並びに社会資本整備の重要性を広く知っていただくことを目的として、平成18年に設立されました。

現在25団体により構成されており、これまで建設フェアの開催や工事現場見学の紹介などの活動を行っています。

今回高知で開催する「建設フェア」は、平成4年度の第1回の開催から数えて、今回で21回目の開催となります。



写真－1 開会式（島中委員長挨拶）



写真－2 開会直後の様子

3. 開催概要

今回のブースは前回は上回る94団体が出展し（前回は85団体）、①120ブースにおいて、各社自慢の最新テクノロジーによる建設技術・防災技術の展示・実演等が紹介されました。

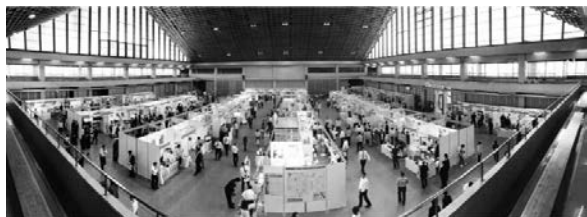


写真-3 会場全景

②また、子供向けにもの作りの楽しさを家族で楽しめる高専土木女子による「どぼじょ工作教室」（詳細は4. イベントに記述）



写真-4 高専どぼじょ工作教室

③塗り壁や泥団子作りなどを体験できる「左官体験コーナー」

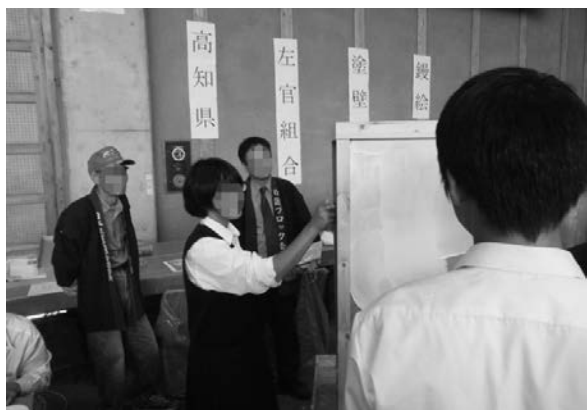


写真-5 左官体験コーナー

④官民の女性技術者と学生が土木の仕事の魅力や仕事と家庭との両立等について語る「女性技術者と語ろう！」



写真-6 女性技術者と語ろう！

⑤港湾業務艇「とさかぜ」に乗船し、普段見る機会の少ない景色を楽しみながら、港の役割を学ぶ「みなとウォッチングin高知」



写真-7 みなとウォッチング

⑥土石流3Dシアターや降雨体験装置を体験できる「災害疑似体験コーナー」



写真-8 土石流3Dシアター



写真-9 降雨体験装置

⑦災害時に活躍する遠隔操作バックホウや排水ポンプ車、対策本部車、衛星通信車などを展示した「災害対策車両展示」（詳細は4. イベントに記述）



写真-10 遠隔操作バックホウ



写真-11 排水ポンプ車

⑧東日本大震災等に関連したパネル、津波漂流物の展示「来るべき巨大地震に備えて」



写真-12 パネル・津波漂流物展示

⑨工事記録映像により土木への理解を深める「土木工事記録映像上映 高知の礎」



写真-13 土木工事記録映像上映

⑩(株)技研製作所の工場を見学する学生工場見学ツアーなど、各種イベントを実施しました。



写真-14 女子学生の見学状況
(学生工場見学ツアー)

また、以下の行事も同時開催されました。

〈10月14日（金）〉

○特別講演「四国に点在する近代土木遺産の魅力（愛媛大学大学院白柳助教）」、「土木技術者女性の会の紹介（土木技術者女性の会西日本支部古谷支部長）」

（（公社）土木学会四国支部主催）

○新技術発表会

（（株）建通新聞社四国支社主催）

〈10月15日（土）〉

○近代土木遺産巡りバスツアー

（（公社）土木学会四国支部主催）

○「こうち防災フェスタ2016」

（（一社）高知県建設業協会主催）



写真-15 近代土木遺産巡りバスツアー
（1）旭浄水場（高知市）見学状況



写真-16 近代土木遺産巡りバスツアー
（2）（旧）吉野川橋（大豊町）

4. イベント

フェア当日は天候や気温など気象条件にも恵まれ、大盛況のうちに終了しました。

その内、いくつかのイベントについてご紹介します。

（1）ICT関連のブース展示

平成28年度からi-Constructionとして、土工等の建設現場の生産性向上を図る為、ICT全面的活用（土工）に取り組んでいます。

そのような背景もあり、建設フェアでも多くのICT関連のブース展示が行われました。

3次元点群データ処理ソフト、3次元設計ソフト等のソフトの紹介、3Dレーザースキャナー等の計測機器の紹介、ICT建設機械等の施工機器の紹介があり、多くの建設関係者に見学していただきました。

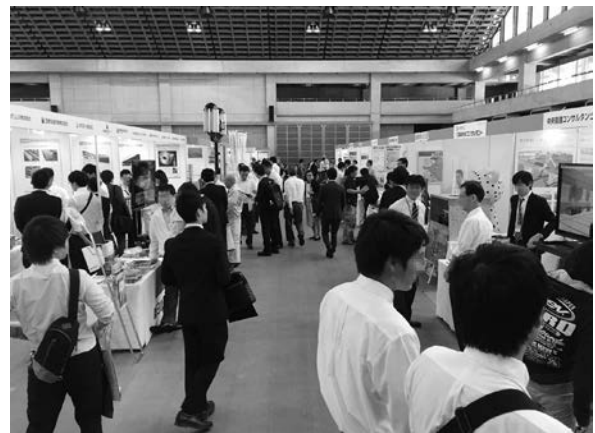


写真-17 ブースの状況

（2）高専どぼじょ工作教室

生産年齢人口の減少、少子高齢化に対応する為には、これからは女性技術者の活躍が不可欠です。また、小さな子供たちにももの作りの楽しさを学んでもらうことも大切です。

今回の建設フェアで、『どぼじょと作ろう工作教室』を開催し、高専女子学生と子供たちがテトラの模型をデコレーションしたり、ペーパークラフトをして、もの作りの楽しさを体験しました。



写真-18 会場の様子

(3) 災害対策車両展示

洪水の際に出動する排水ポンプ車，夜間の水防作業，夜間復旧工事時に明かりを照らす照明車，大規模災害時のNTT等の一般回線不通時に画像の伝送と通話が行える衛星通信車，現地対策本部として被災現場で指揮する対策本部車，法面崩落箇所等で安全に復旧作業を行う遠隔操作バックホウ等，通常時には見ることができない災害対策車



写真-19 災害対策車両全景

両を近くで見て，触れることができ，多くの家族連れ・子供たちに人気を博していました。

また他に高所作業車の作業デッキへの搭乗体験も行われ，高所からの遠望を楽しむとともに，高所作業の高さの体験もでき，家族連れ，特に子供たちには貴重な経験になったのではないかと考えています。

5. おわりに

建設フェアを通じて，実際に見て，体験していただくことにより，建設関係者はもとより，一般の方，学生，女性技術者の方，将来を担う子供たちに暮らしと建設の関わりや，i-Construction等の新しい建設技術などについて，少しでも興味を持っていただけたのではないかと思います。

建設フェアは，2年に1度の開催であり，次回平成30年の高松開催に向け，将来の建設業界を担っていただける人材の確保に寄与すべく，今後とも引き続き産・官・学が連携し，広報活動に取り組みたいと考えております。

最後になりましたが，この建設フェアを開催するにあたり，多くの関係者の皆様，出展者の皆様のご協力のおかげで盛況に開催することができましたことに深く感謝しております。